

# 営農情報



## 令和5年産水稻栽培に向けて

今年も田植えのシーズンを迎えました。農作業は計画的にすすんでいますか？  
田植え前後の作業を適切に実施し、安定した品質と収量をめざしましょう。  
今回は、田植え前後の作業についてご紹介します。

### ポイント 1

#### 代かきのポイント

代かき作業を丁寧に行うことで植物残渣が分解されやすくなり、田植え作業の効率化や植え付けの精度が向上します。また、「ゆい」と「3月号」に掲載した除草効果にも影響しますので、耕起作業で田面の高低をできる限り修正してから代かき作業を行いましょ。

代かき作業前の入水量の目安は、土が7〜8割見える程度の浅水代かきがおすすめです。浅水代かきによって落水時における肥料等の流亡を防ぐことができます。

また、トラクターの速度は、時速2〜4kmのスピードで行います。これより速すぎても遅すぎても均一な仕上がりを目指すうえで支障があるのに注意してください。トラクターのスピードが速すぎると土を細かく砕くことができません。土が細かくなっていると、田植時に苗をうまく差し込むことができなくなります。反対にスピードが遅いと、土が細かくなりすぎてしまい、田面が柔らかくて植付けが安定せず、浮き苗等の原因となりますので程よい田面の硬さに仕上げることが意識しまし。



土は羊かん程度の硬さの仕上がりが最適です

### ポイント 2

#### 田植えのポイント

田植え作業時の水位は、1〜2cmに調整することがポイントです。水位が浅すぎると田植え機に泥がついてしまい、走行中には苗の病気になることがあります。また、水位が深いと水温が上がらず活着できなかつたり、除草剤の影響を受けたりします。

田植え作業時の適温は、日平均気温が中苗で14℃以上です。できれば最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が12℃以下の日や強風の日は作業を見合わせましょ。

田植え後〜苗の活着までは、保温効果を高めるため水深を4cm程度とします。活着後は、日照量の多い日や温暖な日（気温15℃以上）は浅水で水温・地温を高め、寒い日（気温14℃以下）や強風の日は深水管理を行い、分けつを促すようにしましょ。分けつは、日中と夜間の温度差（水温差）が大きい環境のもとで促進されるので、入水は水温の低い早朝に短時間で行いましょ。

田植え作業時は、複数名で行うことが多く、苗の取り違い（品種の間違い）や苗箱施用剤と除草剤の間違い等が見受けられます。特に苗箱剤と除草剤の施薬は、十分に確認しましょ。



補助作業する人も一緒に確認しましょ